



河童かっぱと蛙かえる

学びナビ

オノマトペ（擬声語・擬態語）

オノマトペのはたらき

音や声を表現した言葉を擬声語、様子や状態、気持ちなどを音で表現した言葉を擬態語といいます。また、これらを合わせてオノマトペといいます。オノマトペは、物事を感覚的に描写する言葉であり、その意味は言葉の音やイメージと関わっています。例えば、次の文章の中のオノマトペは、何を表現しているでしょう。

兵十ひょうじゅうがいなくなると、ごんは、ぴよいと草の中からとび出して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて、ぽんぽん投げこみました。どの魚も、「とぼん」と音をたてながら、にごった水の中へもぐりこみました。
（新美南吉『ごんぎつね』）

「ぽんぽん」は擬態語、「とぼん」は擬声語です。「ぽんぽん」は、気軽に次々と投げこんでいる様子、「とぼん」という音の描写からは、魚が確かに川の中に帰ったことが感じられます。「ぽんぽん」を「ばんばん」と比べて、言葉の音や

10

5

目標

- 比喩や反復などの表現の技法を理解する。
- 詩の構成や展開、表現の効果について考える。

オノマトペ

<p>擬声語</p> <p>【主に音や声を表す】</p> <p>ニャーニャー、ワンワン</p> <p>（動物の鳴き声）</p> <p>コンコン</p> <p>（たたく音）</p> <p>ザーザー</p> <p>（雨が降る音）</p>	<p>擬態語</p> <p>【主に様子や状態、気持ちを表す】</p> <p>ぐるぐる</p> <p>（ものが回転する様子）</p> <p>かちかち</p> <p>（ものが硬い状態）</p> <p>しよんぼり</p> <p>（寂しい気持ち）</p>
---	--

※どちらかに分類できない語もあります。

イメージの違いを考えてみると、よくわかるでしょう。

また、擬声語とも擬態語とも受け取れる言葉もあります。例えば、「ぴちぴち跳ねる魚」という表現は、水のついた魚が跳ねているときにたてる音（擬声語）とも受け取れますし、跳ねている様子（擬態語）とも受け取れます。表現されるものと言葉のつながりを考えることで、表現を深く味わうことができるでしょう。

オノマトペが開く表現

次の文章の空欄には、あるオノマトペが入ります。

向こうから（ ）

（ ）一匹きの蟻の兵隊が走って来ます。

（宮沢賢治『朝に就ての童話的構図』）

宮沢賢治は、ここに「ぷるぷるぷるぷる」という言葉を入れました。一般的には、ふるえる様子を表す「ぷるぷる」ですが、ここでは蟻が走る様子を表現しています。どんな様子で走っているのか、想像が膨らむ表現です。

オノマトペには、物事にぴったり合った音や様子を表す役割だけでなく、それらを新しい感覚で捉え直させる役割もあるのです。

15 10 5



- オノマトペに注目して、どんな音や様子を表そうとしているのか、声に出して音を確認めたり、目で文字の形を確かめたりしながら、想像してみよう。
- オノマトペを使って表現することの効果も、使わない場合と比べて考えてみよう。

文章を書くときなどに、自分で作ったオノマトペを使って工夫してもおもしろいね。



↓ P 151 みちしるべ 2



河童と蛙

草野 心平

るんるん	るるんぶ
るるんぶ	るるん
つんつん	つるんぶ
つるんぶ	つるん

河童の皿を月すべり。

じゃぶじゃぶ水をじゃぶつかせ。

かおだけ出して。

踊わとつてる。

10

5

▼
踊

ヨウ
おどる

踊り
日本舞踊

るんるん るるんぶ

るるんぶ るるん

つんつん つるんぶ

つるんぶ つるん

大河童沼ぬまのぐるりの山は。

ぐるりの山は息をのみ。

あしだの手だのふりまわし。

月もじゃぼじゃぼ沸わいている。

るんるん るるんぶ

るるんぶ るるん

つんつん つるんぶ

つるんぶ つるん

立った。立った。水の上。

河童がいきなりぶるるつとたち。

15

10

5

意こころぐるり
文 息をのみ

沸フツ
わく
湯ゆを沸こかす

沼ぬま
沼地

天のあたりをねめまわし。
それから。そのまま。

るるるん るるんぶ

るるんぶ るるん

つんつん つるんぶ

つるんぶ つるん

もうその唄もきこえない。

沼の底から泡がいくつかあがってきた。

兎と杵の休火山などもはつきり映し。

月だけひとり。

動かない。

ぐぶうと一と声。

蛙がないた。

15

10

5

▼唄 うた 長唄

▼泡 ホウ 気泡
あわ 泡だつ

意 ねめまわす



草野 心平

〔一九〇三—一九八八〕
福島県に生まれた。
詩人。

詩集に『第百階級』
『絶景』『定本 蛙』など
がある。

《出典》『げんげと蛙』に
よった。

千 みちしるべ

1 『河童と蛙』を読んで感じたことを発表しよう。

2 この詩で使われているオノマトペについて、何を表現しているのか、どのようなイメージを生み出しているのか、考えよう。

3 この詩の最後に登場する「蛙」は、この作品の中でどのような役割を果たしているか、考えよう。

参考

川上さん 題名どおり、この詩には河童と蛙が登場するね。
大竹さん 九つの連のうち、一連から八連は河童の踊りの情景で、九連だけに蛙が登場するよ。
小林さん 四つの連で繰り返される「るるるん るるんぶ……」も、「ぐぶう」という蛙の鳴き声も印象的だよ。

言葉・情報

言葉と表現

反復表現やオノマトペの効果について話し合い、この詩を朗読しよう。

朗読するには

朗読とは本文を声に出すことだけではなく、聞き手にどのように伝えるかを意識しながら読むことです。

その際に大切なことは、作品の内容をしっかり踏まえることです。なぜそのように本文を読むのかを意識したうえで、そのためにはどう声に出して読めばよいかを考えます。例えば、次のような観点があります。

- ・スピード 速く、ゆっくり、など。
- ・大きさ ささやく声で、叫ぶような声で、など。
- ・テンポ、間^ま 間をあけて、間をあげずに、など。
- ・その他 一人で、複数で、地の文と会話文とで役割を分けて、繰り返して、など。

本文から読み取った内容をもとに、聞き手によく伝わる読み方を工夫^{くふう}しましょう。そのうえで、朗読発表会を開いて、読み取った内容や読み方の工夫を交流してみよう。

